

蛍光尿管ステントで、より安全な手術を行います！

2024年4月より当院では大腸がん手術において、**蛍光尿管ステント**(図1)を導入しました。

高度進行した大腸がんでは尿管に浸潤を来す症例(図2)がありますが、そういった症例においても出来る限り尿管を温存する必要があります。

今回導入した「**蛍光尿管ステント**」と、当院で使用している外科手術用内視鏡システム「**VISERA ELITE III**」(図3)を用いて、腹腔鏡手術でも、より容易に尿管を確認することが出来るようになりました。

手術手技としては、全身麻酔下に、泌尿器科医師にて膀胱鏡を用いて**蛍光尿管ステント**を留置し(図4)、その後に腹腔鏡手術を開始します。**VISERA ELITE III**のモードを切り替えることで、留置した尿管ステントが**蛍光色に発光**し(図5)、容易に尿管を確認し、安全に手術を行うことが出来ます。

高度進行大腸がんに対しても、低侵襲手術を一人でも多くの患者さんに提供できるよう、これからも新しい技術を積極的に導入して参ります。

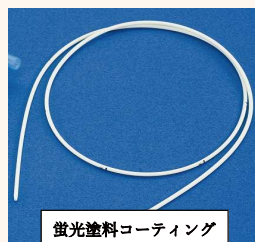


図1. NIRC™
蛍光尿管カテーテル



図3. 外科手術用内視鏡システム
VISERA ELITE III

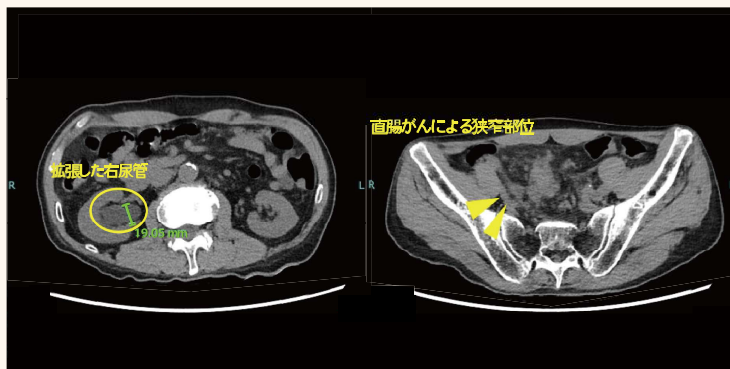


図2. 尿管浸潤が疑われる症例

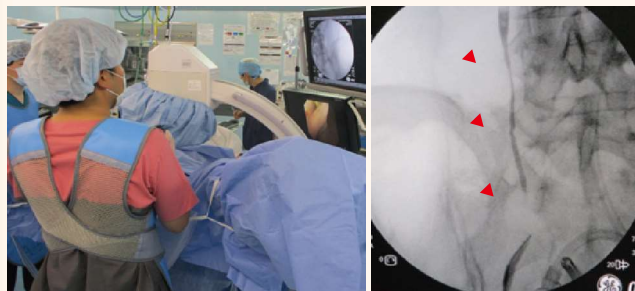


図4. 泌尿器科医師が膀胱鏡で**蛍光尿管ステント**留置(赤矢印:造影された尿管)

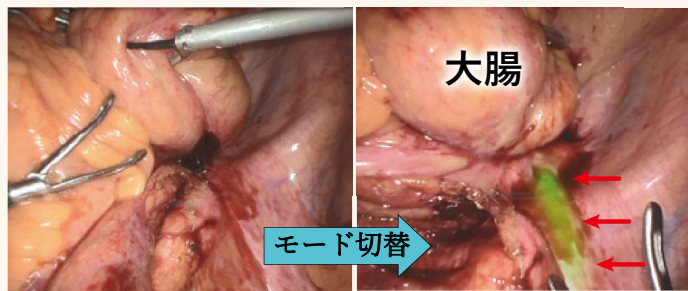


図5. 腹腔鏡手術中に尿管が容易に視認可能(赤矢印:尿管内の**蛍光ステント**が発色)